

酸ヶ湯温泉：強酸性泉でのくつろぎ

標高 890 メートルに位置する酸ヶ湯温泉は、ブナ、カシ、カバ、モミの森林に囲まれています。夜間の通行に規制がありますが、雪の多い冬の間でも車でアクセスできます。

1684 年に横内（現県庁所在地の青森市郊外）の猟師が、怪我を負わせた鹿を追って森に入り、その鹿が温泉で傷を癒しているのを発見した時から、人々は酸ヶ湯のお湯に浸かってきました。実は、この温泉もとの名前は鹿の湯といい、長い間にそれが訛って酸ヶ湯になりました。

大正時代（1912-1926）の初頭まで、酸ヶ湯は休憩のための簡素な小屋しかない、特定の季節にのみ利用される温泉でした。温泉水の酸性があまりに強かったため、入浴する人は、肌を守るために白い肌着とスゲの笠を着けて湯に浸かったとされています。

現在、酸ヶ湯温泉は大きな旅館ですが、木造の建物は往来の雰囲気漂わせています。ヒノキでできた巨大な混浴の入浴施設「千人風呂」で知られる酸ヶ湯温泉には、それより規模の小さい男女別のお風呂もあります。